

個性派企業の追求～社会貢献企業実現のために

---

昭和電工株式会社  
2009年第3四半期決算説明資料

2009年10月30日

取締役 常務執行役員 CFO

野村 一郎



本資料は発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 連結対象会社 ＜6月末対比＞

### ■ 連結子会社 40社

#### ■ 新規連結 1社

- 昭和電工HD山形(株)(電子・情報セグメント)

### ■ 持分法適用会社 18社

#### ■ 異動なし

## 主要諸元

	2008年7-9月	2009年7-9月	増減
■ 為替レート (円/US\$)	107.7	93.7	14.0円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	85,800	41,300	△44,500
■ アルミ LME (US\$/T)	2,838.9	1,842.6	△996.3

※09年6月30日期末レート96.0円      09年9月30日期末レート90.2円  
⇒ 5.8円円高

## 連結業績の概要(7-9月対比)

(億円)

	2008/7-9	2009/7-9	増減
売上高	2,817	1,853	△964
営業利益	108	67	△41
営業外損益	△33	△41	△7
金融収支	△18	△16	3
持分法投資損益	△3	△1	2
為替差損益	1	△9	△9
その他	△13	△16	△3
経常利益	74	26	△48
特別利益	61	1	△60
内、投資有価証券売却益	61	0	△60
特別損失	△17	△38	△21
内、減損損失	—	△21	△21
税金等調整前四半期純利益	118	△11	△129
法人税等	△41	10	51
少数株主損益	△4	△3	1
四半期純利益	73	△4	△77

## 連結売上高差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2008 7-9	2009 7-9	増減	項目
石油化学	1,229	672	△558	オレフィン:減収(主に価格低下、数量はほぼ前年同期並み) 有機:減収(価格低下、酢酸大口外販停止)
化学品	259	218	△41	AN、クロロプレンゴム:減収(価格低下、数量減) 酸素・窒素:増収(価格上昇)
電子・情報	500	386	△114	HD:減収(円高、価格低下) 化合物半導体、特殊ガス、レアアース:減収(数量減)
無機	220	135	△85	セラミックス:減収(数量減) 電極:減収(数量減)
アルミニウム 他	609	443	△166	アルミ地金:減収(外販縮小による数量減) 圧延品、押出・機能材、ショウテック:減収(数量減) 熱交換器:増収(中国)、減収(国内・米国・欧州) アルミ缶:前年同期並み
合計	2,817	1,853	△964	

## 連結営業利益差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2008 7-9	2009 7-9	増減	項目
石油化学	36	37	1	オレフィン:前年同期並み 有機:増益(酢酸大口外販停止)
化学品	17	7	△10	AN,クロロプレンゴム:減益(価格低下)
電子・情報	25	14	△11	HD:増益(数量増、コストダウン) 化合物半導体:減益(数量減) 特殊ガス:減益(数量減) レアアース:減益(数量減)
無機	43	5	△38	セラミックス:減益(数量減) 電極:減益(国内、米国ともに数量減)
アルミニウム 他	1	8	7	圧延品、押出・機能材、ショウテック:減益(数量減) 熱交換器:増益(中国)、微増益(米国はリストラ) 減益(国内・欧州は数量減) アルミ缶:増益(採算改善) 卸電力:増益(燃料価格低下)
共通・本部	△14	△4	10	コストダウン等
合計	108	67	△41	

## 連結業績の概要(09年2Q,3Q対比)

(億円)

	2009年4-6月	2009年7-9月	増減
売上高	1,656	1,853	197
営業利益	△72	67	139
営業外損益	△35	△41	△6
金融収支	△11	△16	△5
持分法損益	2	△1	△3
為替差損益	△3	△9	△6
その他	△23	△16	7
経常利益	△107	26	133
特別利益	19	1	△18
特別損失	△91	△38	54
内、減損損失	△82	△21	61
税金等調整前四半期純利益	△180	△11	168
法人税等	△65	10	75
少数株主損益	0	△3	△3
四半期純利益	△244	△4	240

## 連結売上高差異内訳(09年2Q,3Q対比)

(億円)

	2009年 4-6月	2009年 7-9月	増減	項目
石油化学	561	672	111	オレフィン:増収(数量増、価格上昇) 有機:僅かに減収(酢ビ、酢エチ数量減)
化学品	270	218	△52	アンモニア、クロロpreneゴム:増収(数量増) 昭和炭酸:減収(2Qは決算期変更により6ヶ月連結)
電子・情報	271	386	114	HD:増収(需要急増、HD山形新規連結による数量増) 化合物半導体、特殊ガス、レアアース:増収(数量増)
無機	124	135	10	セラミックス、電極:増収(数量増)
アルミニウム 他	430	443	13	アルミ地金:減収(外販縮小) 圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔数量増) 押出・機能材:増収(LBP用アルミシリンダー数量増) 熱交換器:増収(国内・中国・タイ) 前四半期並み(米国・欧州) ショウテック:増収(数量増) アルミ缶:減収(数量減)
合計	1,656	1,853	197	



## 連結営業利益差異内訳(09年2Q、3Q対比) ～全セグメント黒字化～

(億円)

	2009年 4-6月	2009年 7-9月	増減	項目
石油化学	26	37	12	オレフィン:増益(市況改善) 有機:前四半期並み
化学品	△3	7	10	AN、アンモニア、工業ガス:増益(数量増)
電子・情報	△63	14	77	HD:増益(数量増) 化合物半導体、特殊ガス、レアアース:増益(数量増)
無機	△1	5	6	セラミックス、電極:増益(数量増)
アルミニウム 他	△23	8	31	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔数量増) 押出・機能材:増益(LBP用アルミニウムシリンダー数量増) 熱交換器:小幅増益(国内・米国・中国・タイ) 前四半期並み(欧州) ショウテック:増益(数量増) アルミ缶:増益(コストダウン) 卸電力事業:増益(燃料価格低下)
共通・本部	△7	△4	3	
合計	△72	67	139	

(ご参考) 連結業績の概要(1-9月対比)

(億円)

	2008/1-9	2009/1-9	増減
売上高	7,925	4,720	△3,205
営業利益	354	△162	△516
営業外損益	△99	△156	△56
金融収支	△48	△43	5
持分法投資損益	△0	△12	△12
為替差損益	△31	△4	26
その他	△21	△96	△76
経常利益	255	△318	△572
特別利益	104	20	△84
内、投資有価証券売却益	78	16	△63
特別損失	△63	△202	△139
内、減損損失	—	△105	△105
税金等調整前四半期純利益	296	△500	△796
法人税等	△98	32	131
少数株主損益	△8	△2	5
四半期純利益	190	△470	△660

## 連結売上高差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

	2008年 1-9月	2009年 1-9月	増減	項目
石油化学	3,276	1,634	△1,642	オレフィン・有機:減収(数量減、価格低下)
化学品	667	686	20	昭和炭酸株:前年6月新規連結 AN:減収(価格低下) クロロプレンゴム:減収(数量減)
電子・情報	1,510	816	△694	HD:減収(上期に数量減) 化合物半導体、特殊ガス、レアアース:減収(数量減)
無機	655	363	△292	セラミックス、電極:減収(数量減)
アルミニウム 他	1,817	1,220	△597	アルミ地金:減収(外販縮小) 圧延品:減収(コンデンサー用高純度箔数量減) 押出・機能材:減収(LBP用アルミシリンダー数量減) 熱交換器:増収(中国) 減収(国内・米国・欧州・タイ) ショウテック:減収(数量減) アルミ缶:増収(数量増)
合計	7,925	4,720	△3,205	

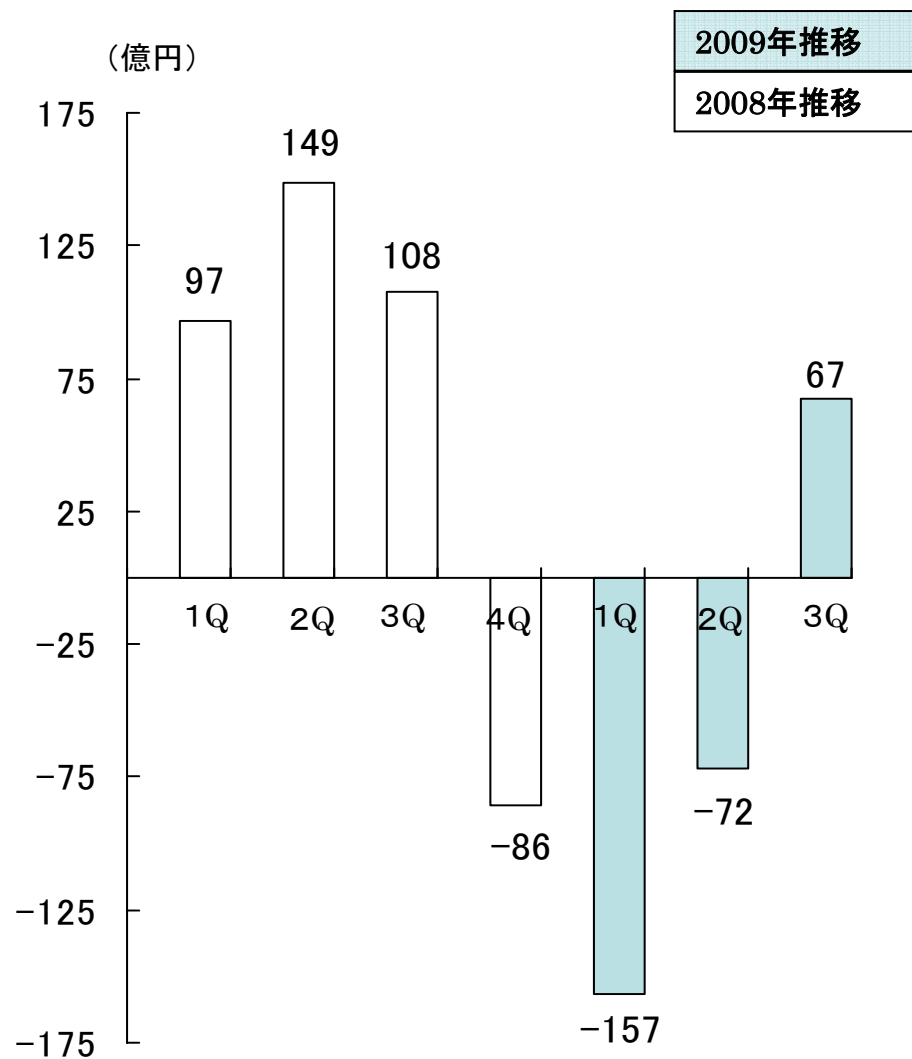
## 連結営業利益差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

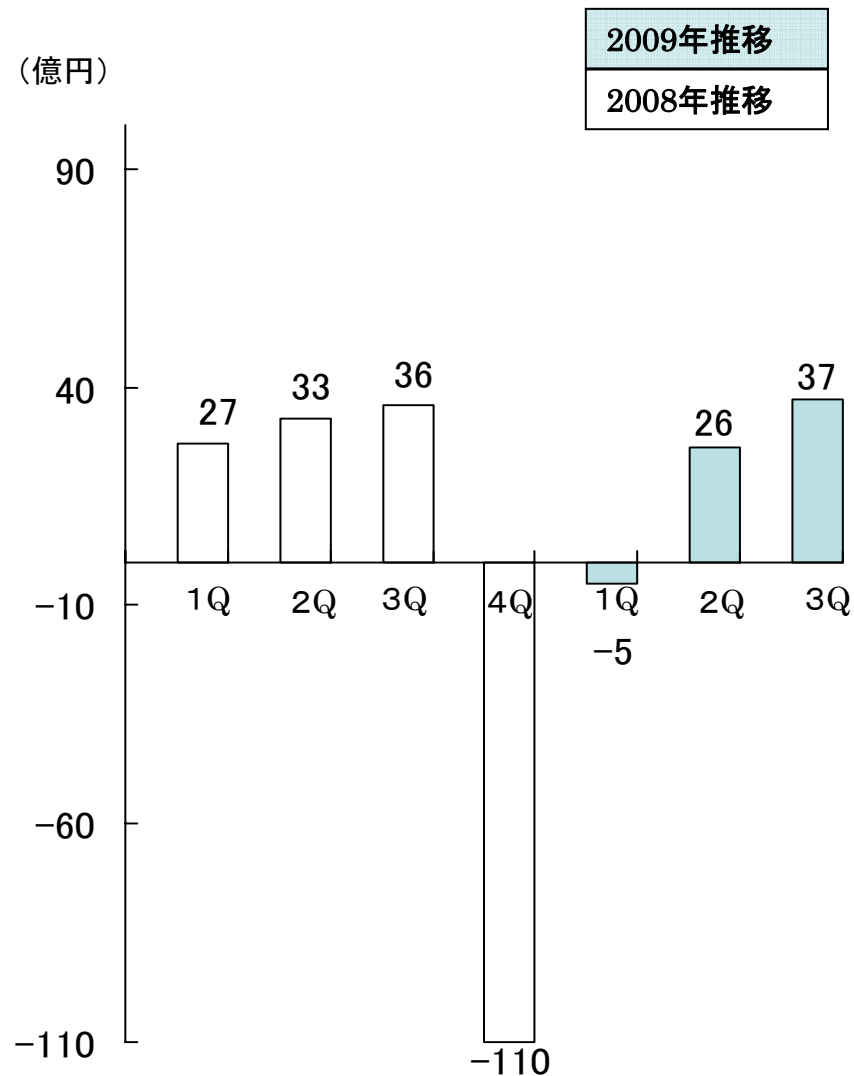
	2008年 1-9月	2009年 1-9月	増減	項目
石油化学	97	58	△39	オレフィン・有機:減益(数量減) 昭和高分子:増益(数量増)
化学品	53	△5	△58	AN:減益(価格低下) クロロプレンゴム:減益(数量減)
電子・情報	99	△143	△243	HD:減益(上期において数量減) 化合物半導体、特殊ガス、レアアース:減益(数量減)
無機	141	8	△133	セラミックス、電極:減益(数量減)
アルミニウム 他	8	△59	△68	圧延品:減益(コンデンサー用高純度箔数量減) 押出・機能材:減益(LBP用アルミニウムシリンダー数量減) 熱交換器:増益(中国)、小幅増益(米国) 小幅減益(国内・欧州・タイ) ショウテック:減益(数量減) アルミ缶:増益(数量増)
共通・本部	△45	△20	25	コストダウン等
合計	354	△162	△516	

# セグメント別連結営業利益推移

■全社

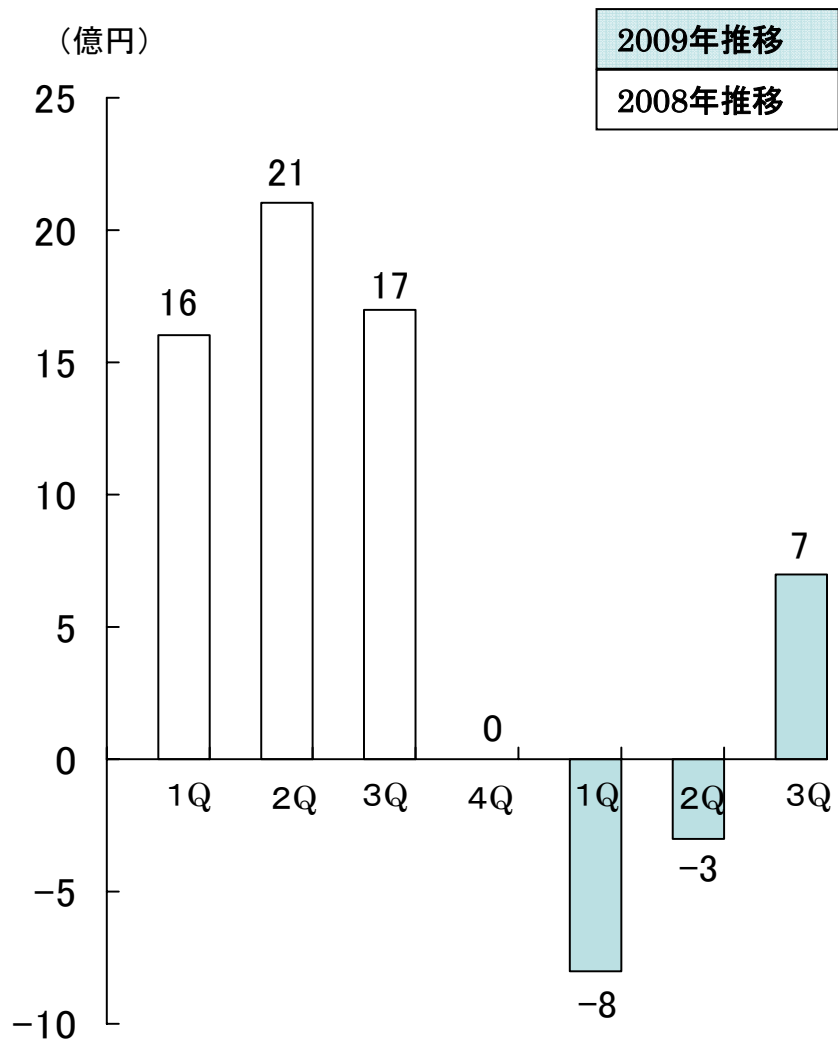


■石油化学セグメント

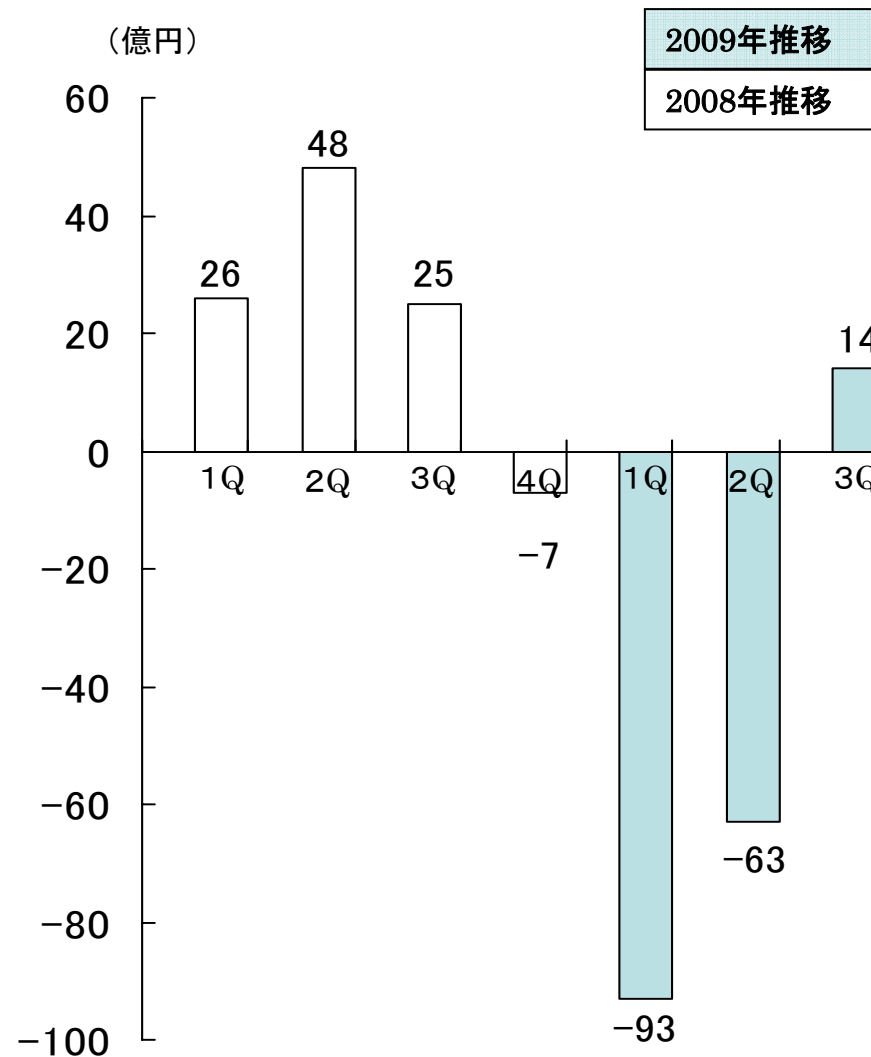


# セグメント別連結営業利益推移

■ 化学品セグメント

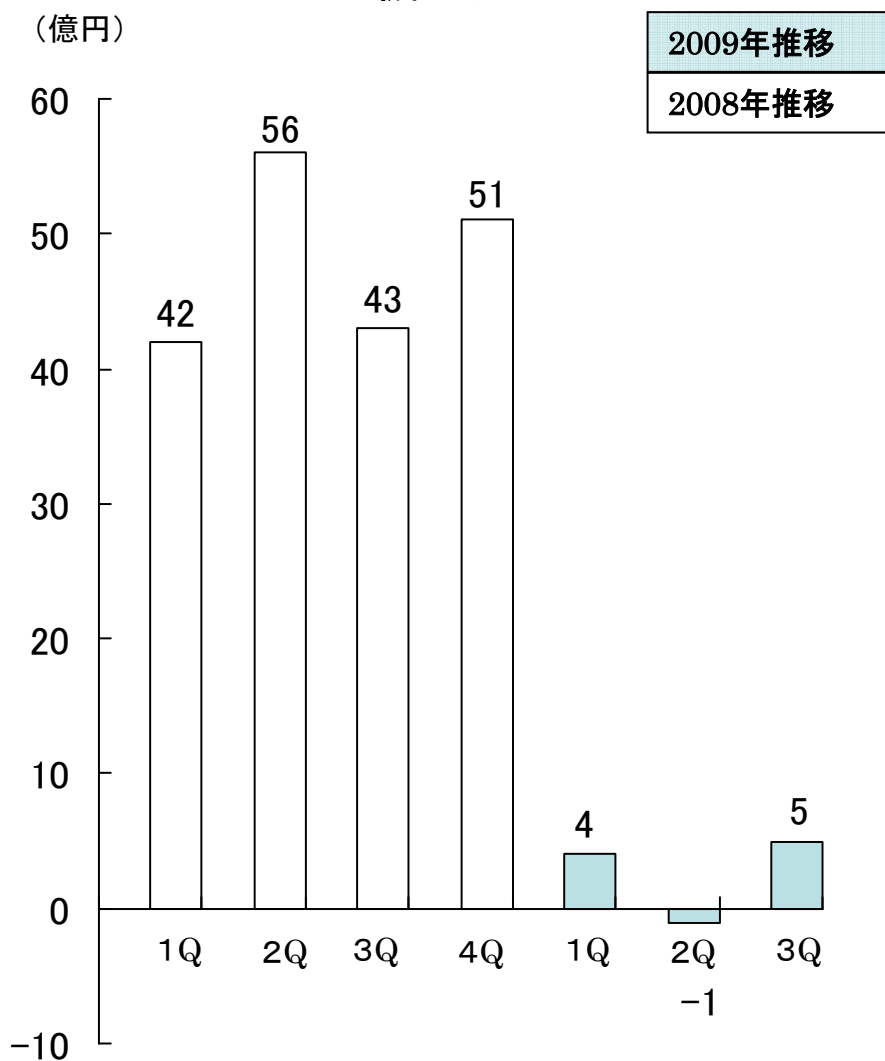


■ 電子・情報セグメント

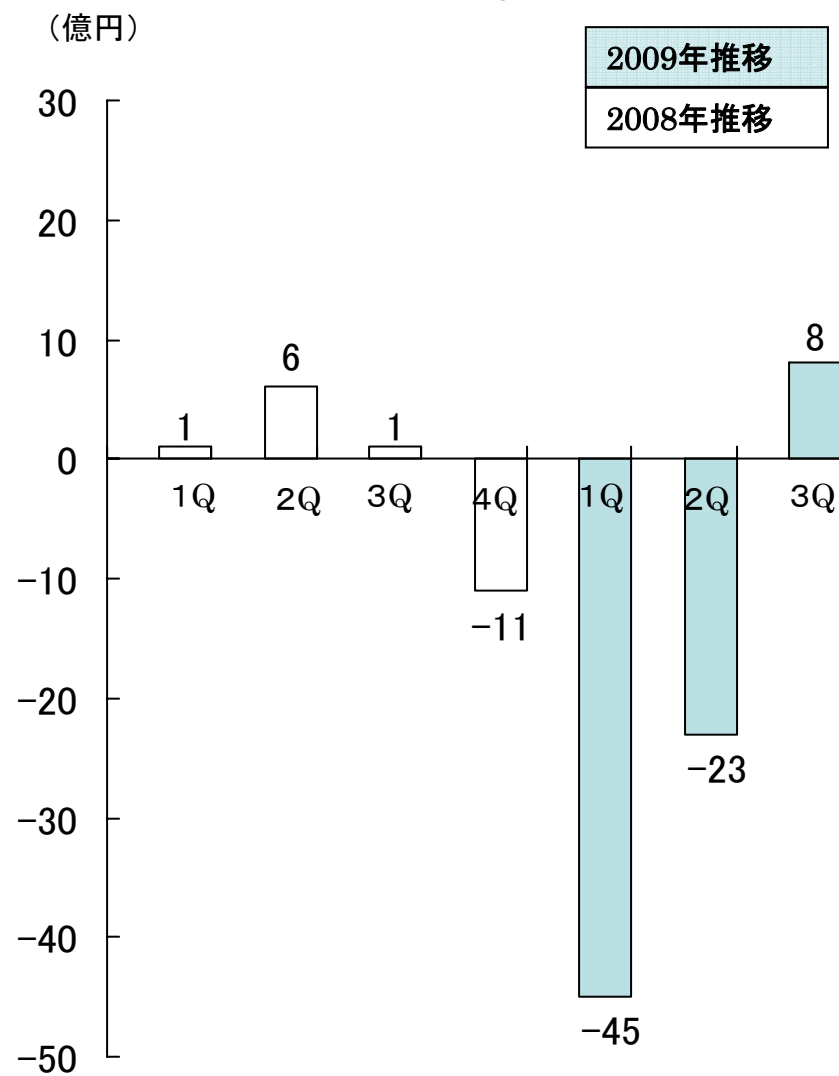


# セグメント別連結営業利益推移

■無機セグメント



■アルミニウム他セグメント



# 連結貸借対照表

(億円)

資産	2009年 6月末	2009年 9月末	増減	負債・純資産	2009年 6月末	2009年 9月末	増減
現預金	434	387	△48	営業債務	848	983	135
営業債権	1,011	1,222	211	有利子負債	4,322	4,182	△140
たな卸資産	982	969	△13	再評価に係る繰延税金負債	460	460	—
繰延税金資産	49	63	14	退職給付引当金	276	273	△2
その他	290	262	△27	その他	989	1,094	105
流動資産計	<u>2,765</u>	<u>2,902</u>	<u>137</u>	負債計	<u>6,895</u>	<u>6,992</u>	<u>98</u>
建物・構築物	921	915	△7	資本金	1,219	1,219	—
機械装置・運搬具	1,430	1,391	△39	資本剰余金	379	379	—
土地	2,561	2,560	△1	利益剰余金	206	202	△4
他有形固定資産	260	245	△16	自己株式	△2	△2	△0
有形固定資産計	5,173	5,111	△62	株主資本計	1,803	1,799	△4
無形固定資産	138	138	△0	その他有価証券評価差額金	59	47	△12
投資その他の資産	992	1,000	8	繰延ヘッジ損益・為替換算調整額	△145	△144	1
(内、投資有価証券)	683	658	△25	土地再評価差額金	219	219	0
(内、繰延税金資産)	166	211	45	評価・換算差額等計	133	122	△11
				少数株主持分	238	238	0
固定資産計	<u>6,303</u>	<u>6,249</u>	<u>△54</u>	純資産計	<u>2,174</u>	<u>2,159</u>	<u>△15</u>
資産合計	9,069	9,151	83	負債・純資産合計	9,069	9,151	83

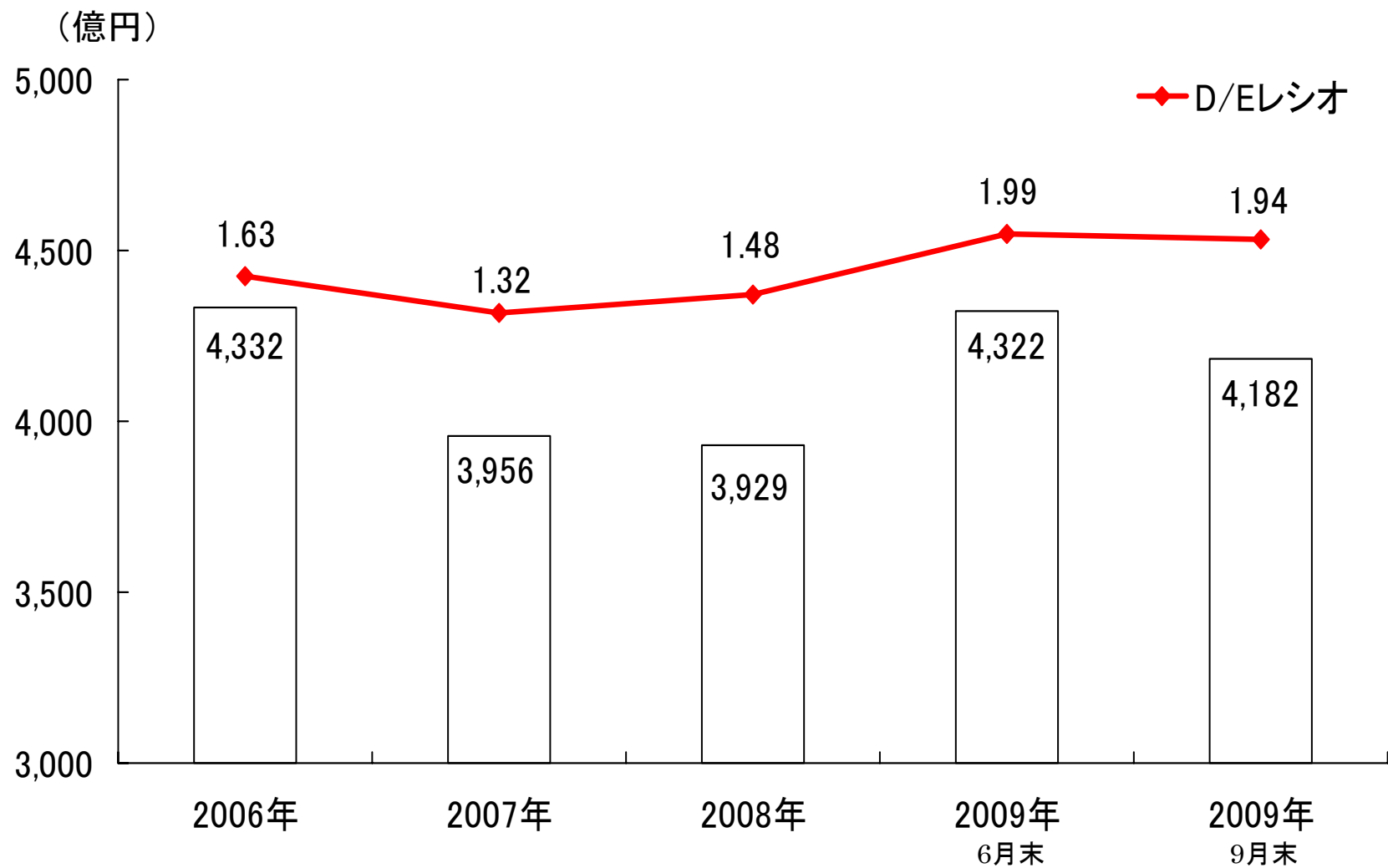


## 総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2009年6月末	2009年9月末	増減
■ 総資産	9,069億円	9,151億円	+83億円
■ 有利子負債	4,322億円	4,182億円	△140億円
■ D/Eレシオ	1.99倍	1.94倍	△0.05p
■ 自己資本比率	21.4%	21.0%	△0.4p

※D/Eレシオの算定については有利子負債を純資産で除す方法に変更しました。

# 連結有利子負債の推移



※D/Eレシオの算定式: 有利子負債 / 純資産

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■ 全社施策

#### ● 2009年・2010年の構造改革と

2011年以降の経営戦略のコンセプト(7/30発表)

#### ◆ 「パッション・エクステンション」(2009年・2010年)

2009年・2010年を、2011年以降の新中期経営計画に備える助走期間と位置づけ、この2年間で成長のための基盤の整備を行い、あわせて抜本的な事業の見直しや生産体制の最適化等の構造改革を断行する。

#### ◆ 2011以降の新中期経営計画

今後、地球温暖化問題、原油等の資源の制約など環境・エネルギーに関連する社会的な課題が大きなものとなることが想定される。現在策定中の新中期経営計画において、「個性派化学」を一段と進化させ、当社グループが育んだ部材・素材・ソリューションにより「エネルギー」・「健康と安全」・「利便性のさらなる向上」などの新たな社会ニーズに貢献する。また、これらの領域をカバーする成長分野の高機能製品の育成加速に向けて、効率的に経営資源を配分する。

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■ 全社施策

● 新株式発行及び株式売出し並びに第三者割当による2014年満期ユーロ円建て転換社債型新株予約権付社債(劣後特約付)の発行及び当社海外特別目的子会社によるユーロ円建交換権付永久優先出資証券の発行(9/29発表)

- ◆ 次期中期経営計画のスタートに先立ち、成長分野の展開加速と基盤事業の強化に向けて、資本の充実を図るため資金を調達。
- ◆ 公募増資388億円(第三者割当による新株発行実施時の上限)は主に設備投資に、残額は有利子負債の返済に充当する予定。
- ◆ ハイブリッドファイナンス240億円は有利子負債の返済に充当する予定。

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■化学品セグメント

- 昭和炭酸(株)の完全子会社化に関する株式交換契約締結(9/29発表)
  - ◆産業ガス事業の基盤強化に向け、当社を完全親会社とし、昭和炭酸(株)を完全子会社とする株式交換契約を締結。本年12月24日をもって昭和炭酸(株)は当社の完全子会社となる予定。

### ■電子・情報セグメント

- ハードディスク生産拠点 昭和電工HD山形(株)発足(7/1発表)
  - ◆本年7月1日、富士通(株)よりハードディスク生産会社の全株式を譲り受け、昭和電工HD山形(株)を発足させた。これにより当社のハードディスク生産は、千葉、山形、台湾、シンガポールの世界4拠点体制へ。世界最大のハードディスク外販メーカーとして最先端の技術で市場の大容量化ニーズに対応する。山形の生産能力は月産300万枚。

# セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

## ■電子・情報セグメント

### ●有機EL 世界トップクラスの光取り出し効率40%を達成(7/28発表)

- ◆新構造を採用した有機EL素子において、世界トップクラスとなる約40%の光の取り出し効率(注1)を達成。これにより、当社が開発中の塗布りん光型高分子有機EL素子の発光効率(注2)は、現時点で公表されている塗布型有機EL素子としては世界最高水準となる1ワット当たり30ルーメンに向上。りん光型素子は、今後、照明等の分野での実用化が大きく期待されている。

(注1)光の取り出し効率:素子内部で発する光をどれくらい素子の外へ出すことができるかを示した割合。  
%で表示。

(注2)発光効率:1ワット当たりのルーメン数で表示。発光材料の性質の改良や光の取り出し効率の改善により発光効率を向上させることが可能。

### ●世界最大記録容量のハードディスク量産開始(9/8発表)

- ◆本年8月より、2.5インチサイズとしては世界最大(注)の記録容量となる334GB/枚のハードディスクの量産を開始。1.89インチ、2.5インチ、3.5インチサイズのハードディスクにおいて垂直磁気記録方式第4世代の量産を中心に行っているが、今般の第5世代2.5インチの量産開始により、一層進む大容量化をリードする。

(注)世界最大:平成21年9月8日現在、当社調べ

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■電子・情報セグメント

#### ●先端電池材料部を新設(9/15発表)

- ◆需要が拡大するリチウムイオン電池向け部材の研究開発から製造、販売までを一元的に集約する先端電池材料部を新設。高機能リチウムイオン電池に採用されている正・負極添加材「VGCF<sup>®</sup>」、電気自動車リチウムイオン電池に既に複数の採用実績がある負極材「SCMG<sup>®</sup>」等、当社グループ保有の電池向け部材を集約し、情報を一元的に管理。これによりお客様のニーズに的確にお応えするとともに、技術革新が進む先端電池材料分野における研究開発の高度化およびスピードアップを図る。

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■アルミニウム他セグメント

- アルミニウム汎用押出材事業からの撤退と  
人員削減による合理化を実施(8/26発表)
  - ◆昨年来の経済環境の激変に対応するため、アルミニウム事業の抜本的な事業の見直しと構造改革の実施による競争力の強化を実行中。その一環として、建材向けを中心とするアルミニウム押出汎用材事業からの撤退とアルミニウム事業における人員削減による合理化を実施する。本施策の実施により収益の改善を図り、持続的成長軌道に回帰する。
  
- 昭和電工グループのエンジニアリング機能の統合(9/24発表)
  - ◆連結子会社の昭和エンジニアリング(株)でこれまで行ってきたエンジニアリング業務を当社に統合することを決定。当社においてグループ内での設備設計・建設等の業務を一括して実施することにより、製品開発から市場投入までのリードタイムの短縮化を図る。加えて、現在積極的に取り組んでいる温室効果ガスの削減等の地球環境問題に関してエンジニアリング面での対応強化を図る。



## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■ 共通・本部

#### ● 固体高分子形燃料電池用

##### バイポーラ型カーボンセパレータの開発(7/23発表)

- ◆ 固体高分子形燃料電池の高出力化を可能とするカーボンセパレータの大幅なコストダウンを実現する技術の開発に成功。カーボンセパレータの製造工程や原料の大幅な見直しによる生産技術の確立により、低コスト化や軽量化にめどをつけると共にこれまで当社が試作した固体高分子形燃料電池に比べて出力密度が約30%増加。この開発は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)の支援の成果。

#### ● 固体高分子形燃料電池用触媒の開発

##### 白金代替触媒として世界最高水準を達成(7/26発表)

- ◆ NEDOの酸化物系非貴金属触媒プロジェクトに参加し、固体高分子形燃料電池用触媒として現行の白金等の貴金属に替わる、ニオブあるいはチタン系酸化物のそれぞれに炭素および窒素を配合した代替触媒の開発に成功。本代替触媒を用いることにより、固体高分子形燃料電池の大幅なコストダウンや長寿命化が可能。この開発はNEDOの支援の成果。